

「まもなくワールドカップ」

僕が中学生だった頃、体育の先生がこんなことを話してくれました。

「日本ではオリンピックが大きく取り上げられるけど、世界で一番大きなスポーツイベントはサッカーのワールドカップなんだ。それは日本のように小さなスタジアムしかない国で開催されることはないけどね。」

それがキッカケで、初めて見たのがスペイン大会。深夜まで起きてブラジルのジーコのプレイに魅了されました。学校の先生って、よく物事を知ってるな〜と思った反面、後に日韓ワールドカップが開かれた時、学校で習う事は、いずれ陳腐化するもんだとも思ったエピソードです。

そんなワールドカップがまもなく開幕します。今回、日本以外で私が注目しているのがスコットランド。それはあるショート動画に感動したことがキッカケです。

今から 20 年ほど前、日本代表でもあった中村俊輔選手がスコットランドのセルティックでプレイしていた時のこと。サッカー教室が終わった時、10 歳の或る少年に自分の履いていたスパイクを脱いで、その場でプレゼントします。

「今日、一番良いプレイをしたから」って。信じられないような顔をして受け取る少年。はにかんだ顔がとっても可愛い、そのシーンに続くのは 20 年後の映像。スコットランド対デンマーク戦、ワールドカップ最終予選のロスタイム (93 分)。

「ティアニー、左足だ〜〜！ワールドカップの切符を掴む 3 点目。ティアニーの左足が炸裂です。28 年ぶりにスコットランドがワールドカップに戻ってきます。」

そう、あの時の少年が決勝点を挙げるのです。それも漫画のようなスーパーゴールを。たった 1 分の動画ですが、見る度に私の涙腺は崩壊します。

実は、この動画には続きがあります。中村俊輔と再会を果たすのです。

再会早々、「あのスパイクは家にまだあります」と写真を見せるティアニー。

「あの時は 1 番上手かった人にあげたんじゃないなくて、1 番サッカーにのめり込んでいる人にあげたの。まさかこんなトッププレイヤーになると思ってなかったんで自分もすごく嬉しい」と中村俊輔。

今回もファンタスティック (幻想的) なプレイに世界中のファンが感動し、「憧れ」の連鎖が生まれることでしょう。最近、サッカーで元気のない息子もワクワク感を思い出して欲しいと願って観戦します。